



財米子市教育文化事業団 22
文化財発掘調査報告書

鳥取県米子市

石州府第2遺跡発掘調査報告書Ⅱ

—市道石州府岸本線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査—

1 9 9 7 . 3

財団法人 米子市教育文化事業団

はじめに

米子市東部の中国地方最高峰大山の山麓には、数多くの埋蔵文化財があります。西日本有数の縄文時代の遺跡として有名な上福万遺跡、弥生時代の環濠と四隅突出型墳丘墓が発見された尾高浅山遺跡、古墳時代後期の約70基の古墳が発掘調査された石州府古墳群など米子市内はもとより鳥取県内でも貴重な遺跡が集中している地域です。

今回の発掘調査は、米子市建設部土木課の委託を受け、市道石州府岸本線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査として実施したものです。その結果、須恵器、土師器などの遺物を確認いたしました。

この発掘調査の記録や出土品が活用され、文化財に対する理解が深まり、文化財保護の一助となれば幸いに存じます。

ここに、発掘調査報告書を刊行するにあたり、ご協力いただきました地元の方々をはじめとして、米子市建設部土木課ならびに関係者各位に感謝申し上げます。

平成9年(1997年)3月

財団法人 米子市教育文化事業団
理事長 森田 隆 朝

例 言

1. 本書は、財団法人米子市教育文化事業団が米子市建設部土木課の委託を受けて実施した市道石州府岸本線改良工事に伴う埋蔵文化財の発掘調査の記録報告である。
2. 本調査の前に、米子市教育委員会が平成7年度及び平成8年度の補助事業による試掘調査を行い、その結果に基づいて本調査を実施した。
3. 本報告書の記載した遺跡の所在地は、鳥取県米子市石州府758-1である。
4. 本報告書に記載の地形図は、国土地理院発行の1/50,000地形図「米子」を使用した。
5. 発掘調査の実施体制は下記のとおりである。
 - ・調査委託者 米子市建設部土木課
 - ・調査主体 財団法人米子市教育文化事業団(理事長 森田隆朝)
 - ・調査担当 財団法人米子市教育文化事業団埋蔵文化財調査室
 - ・調査協力 米子市教育委員会
6. 発掘調査によって出土した遺物、作成した記録、写真などの資料は、米子市教育委員会で保管されている。
7. 本報告書における方位は、すべて磁北を示す。
8. 本文、挿図及び図版中の遺物番号は一致する。

目 次

・はじめに、例言、目次	1
・調査に至る経過、位置と環境	2
・調査の結果	4
・出土遺物	6
・ま と め	6
・発掘調査抄録	8
・写真図版	9

1. 調査に至る経緯

石州府第2遺跡は、鳥取県米子市石州府758-1ほかに所在する。

平成7年11月に米子市建設部土木課から米子市教育委員会に市道石州府岸本線改良工事予定地における埋蔵文化財試掘調査の依頼があった。当該地は、石州府第2遺跡内と考えられたが、現況は、山林となっており、土器の散布などを確認することは不可能であった。そのため、米子市教育委員会が平成7年度及び平成8年度の補助事業で試掘調査を実施し遺跡の範囲などを確認した。その結果、工事予定地のうち、鳥取県企業局配水池に隣接する地域について、埋蔵文化財の存在が考えられた。

これを受けて米子市建設部土木課は、米子市教育委員会と協議を行い、発掘調査の実施を決定し、財団法人米子市教育文化事業団に発掘調査の実施を委託した。

平成6年度に実施した鳥取県企業局配水池新設工事地内や近接する石州府第4遺跡では堅穴住居跡や土器散布地が確認されており、今回の調査地は、これに繋がる遺跡と思われる、発掘調査の実施となった。

2. 位置と環境

石州府第2遺跡(A)は、米子市街地から南東に約8.5kmの米子市石州府地内に所在する古墳時代終末期から奈良時代の集落遺跡である。

縄文時代の遺跡としては、本遺跡北方約500mに上福万遺跡(1)がある。上福万遺跡からは、早期の押型文土器が多量に出土し、西日本有数の規模をほこる。また、本遺跡南方の大山山麓にも縄文時代早期～前期の遺跡が点在している。

弥生時代の遺跡としては、隣接する石州府第1遺跡(2)で土墳墓が確認されており、中期後葉のものと思われる。また、約2.5km北方には、後期前半の環濠と四隅突出型墳丘墓が発見された尾高浅山遺跡(3)があり、その他、後期の環濠が確認されている日下寺山遺跡(4)、四隅突出型墳丘墓や土墳墓群が調査された日下堂平遺跡(5)などかなりの弥生時代中期後半～後期後半の遺跡がみられる。

古墳時代の前期には、本遺跡の周辺の丘陵上に古墳(6)が築かれるようになる。石州府29号墳からは獣帯鏡が出土し、石州府118号墳では、割竹形木棺と鏡片が確認されている。中期の古墳として明確なものはないが、石州府119号墳はV字状の石枕をもち中期的な様相を呈するものである。後期になると、本遺跡に隣接して古墳群(6)がみられる。この古墳群は70基以上で構成され、その主体部は横穴式石室が多くみられ、特に、石州府1号墳(7)は、径40mをこえる大円墳で横穴式石室を内部主体とし市内最大の規模を誇る。

古墳時代終末期～奈良時代の遺跡としては、石州府第4遺跡(8)で堅穴住居跡が確認され、また、上福万遺跡からは、墨書土器(『奈』)が出土している。調査地は、律令体制下においては、伯耆国会見郡にあたる。国会見郡の郡衙は、日野川を隔てた長者屋敷遺跡(9)と推定されている。また、法起寺式伽藍配置をとり重要文化財に指定されている石製鰐尾をもつ大寺廃寺(10)も近い。

平安時代には、坂中廃寺(11)が造営されているが、以降の様相は明らかでない。

室町時代から戦国時代には、尾高城(12)が西伯耆の中心として栄え、発掘調査によってその姿が明らかとなっている。

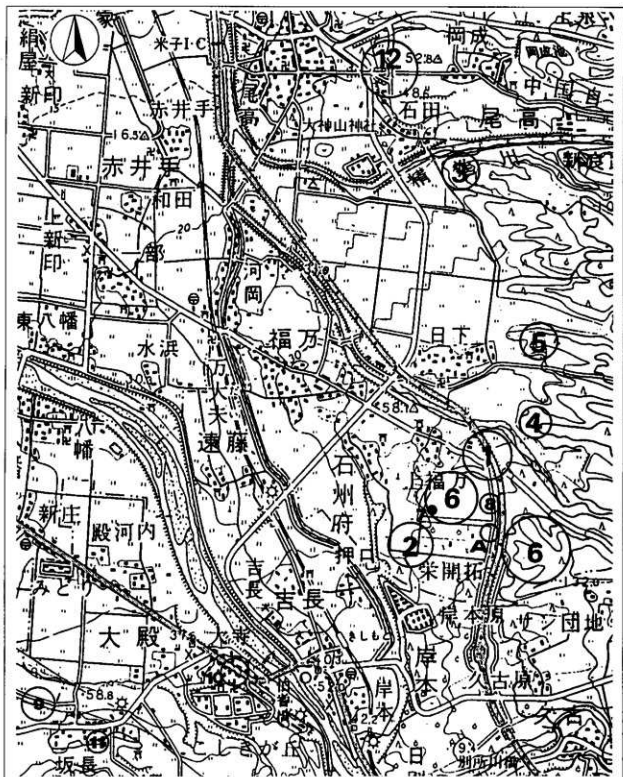


図1 発掘調査位置及び周辺遺跡分布図 (1:25,000)

A.....調査地 (石州府第2遺跡)

- | | | | |
|----------|-----------|----------|-----------|
| 1 上福万遺跡 | 2 石州府第1遺跡 | 3 尾高浅山遺跡 | 4 日下寺山遺跡 |
| 5 日下堂平遺跡 | 6 石州府古墳群 | 7 石州府1号墳 | 8 石州府第4遺跡 |
| 9 長者屋敷遺跡 | 10 大寺庵寺 | 11 坂中庵寺 | 12 尾高城 |

3. 調査の結果

発掘調査は重機による表土除去を行い、その後人力による掘下げをおこない、遺構及び遺物の検出に努めた。

遺構については、明確なものは確認できなかった。

遺物については、表土除去後の黒色土中から、須恵器、土師器、石鏃、黒曜石、磨製石斧、鉄滓が検出できた。調査地の南区域に土師器が多くみられ、中央から北側で須恵器がみられた。

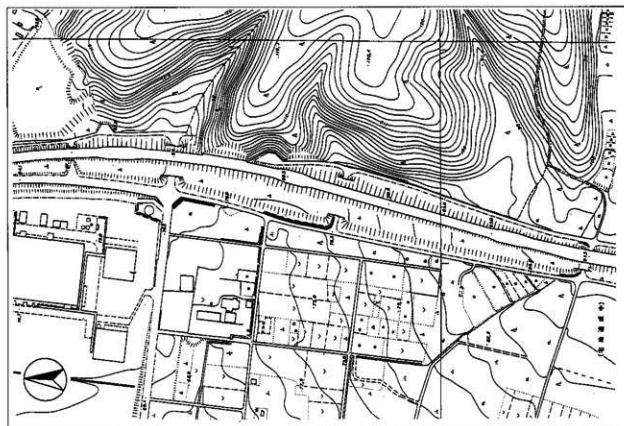


図3 調査区域図 (1:5,000)

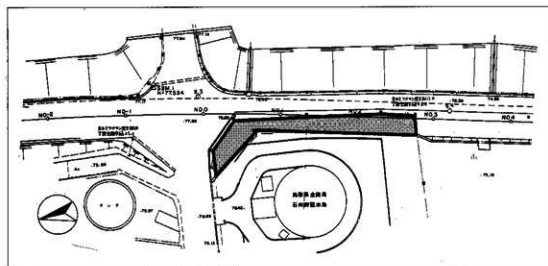


図3 調査区域図 (1:1,000)

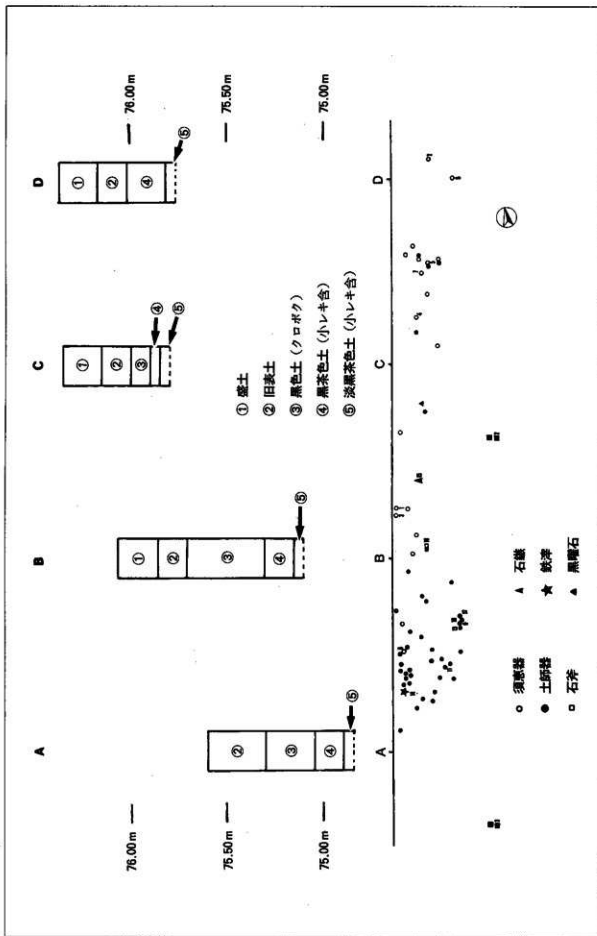


図4 遺物出土分布図 (S=1/200) 及び土層模式図 [数字は、土器番号 (図5参照)]

4. 出土遺物 (第5図)

・須恵器 (1~8)

1~4は高坏である。1は坏部で、脚部には透かしがある。2~4は脚部で、いずれも透かしが入り、3、4は2段透かしである。3は2条の沈線が巡る。6は甕で、口縁は外反し、口縁端部を上下につまみ出す。7は細頸甕の頸部で、外面には自然釉がかかる。8は外面に格子目叩き、内面に青海波文叩きを行う。

・土師器 (9~12)

9、10は壺あるいは甕の口縁で、9の内外面、10の外面はヨコナデ調整を行うが、10の内面はハケ調整を行う。11は壺あるいは甕の頸部である。12は甕の頸部で、内外面ともハケ調整を行う。

・移動式甕 (13)

13は移動式甕の庇で、内外面ともハケ調整の後にナデ調整を行う。

・鉄滓 (14)

14は椀形の鍛冶滓と思われる。

・石器 (15、16)

15は凹基無茎畿で、石材は黒曜石である。16は石斧の刃先であると思われる

5. まとめ

今回の調査では、明確な遺構は確認できなかった。不明瞭なピット的なものが、黒茶色土層上面で検出されたが、遺構には至らなかった。このことは、今回の調査地周辺の発掘調査ではよくみられるが、いづれも遺構とはなっていない。

出土した須恵器は、隣接する鳥取県企業局配水池新設工事の際に実施した発掘調査で確認された須恵器に関係するものと考えられ、石州府古墳群の時期とほぼ同じであり、石州府第4遺跡の住居跡(陰田7期)よりも古く、古墳の存在が推定される。

また、土師器は、H=75.40m前後のレベルで出土しており、面的な広がりをみせている。住居跡の存在が考えられるが、検出には至らなかった。

[参考文献]

田辺昭三 『須恵器大成』 1981年

米子市教育委員会 『陰田』 1984年

財団法人米子市教育文化事業団 『石州府第2遺跡発掘調査報告書』 1995年

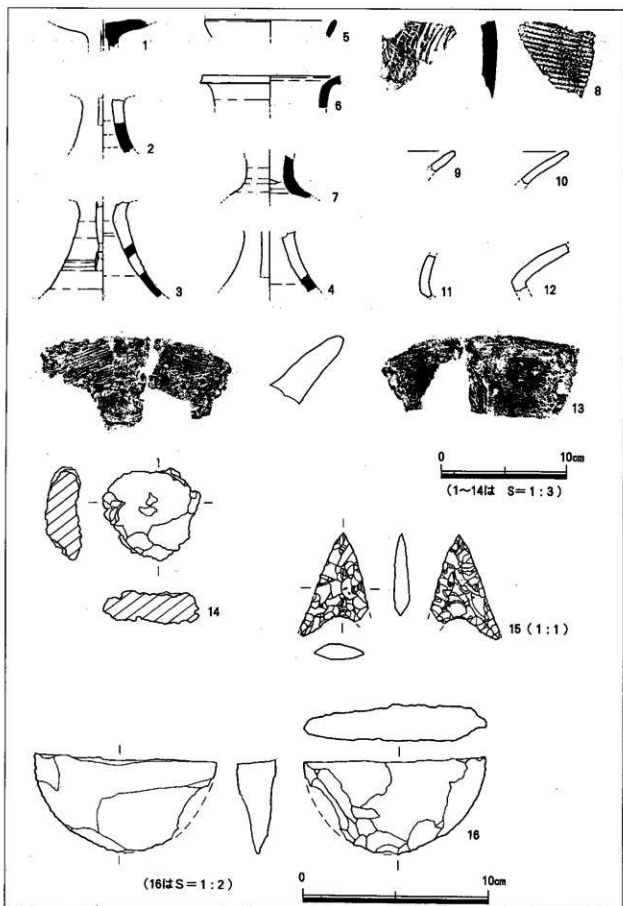


図5 出土遺物実測図

報 告 書 抄 録

ふりがな	せきしょだい2いせき							
書名	石州府第2遺跡 II							
副書名	市道石州府岸本線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	鉏米子市教育文化事業団文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	22							
編著者名	高橋浩樹、平木裕子、下高瑞哉							
編集機関	財団法人 米子市教育文化事業団 埋蔵文化財調査室							
所在地	〒683 鳥取県米子市中町20 TEL(0859)22-7209							
発行年月日	1997年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所材地	コード		北緯 °' "	東緯 °' "	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
せきしょだい2いせき 石州府第2遺跡	せきしょだい2いせき 鳥取県米子市 せきしょ 石州府	31202		35度 23分 30秒	133度 25分 20秒	1996.7.1～ 1996.7.31	300㎡	市道改良 工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
せきしょだい2いせき 石州府第2遺跡	遺物散布地	古墳時代 奈良時代	未検出	石椀、須恵器、土師器、移動式竈 鉄滓、黒曜石		なし		



調査前状況



表土除去



調査地(北部分)



調査地(中央部分)



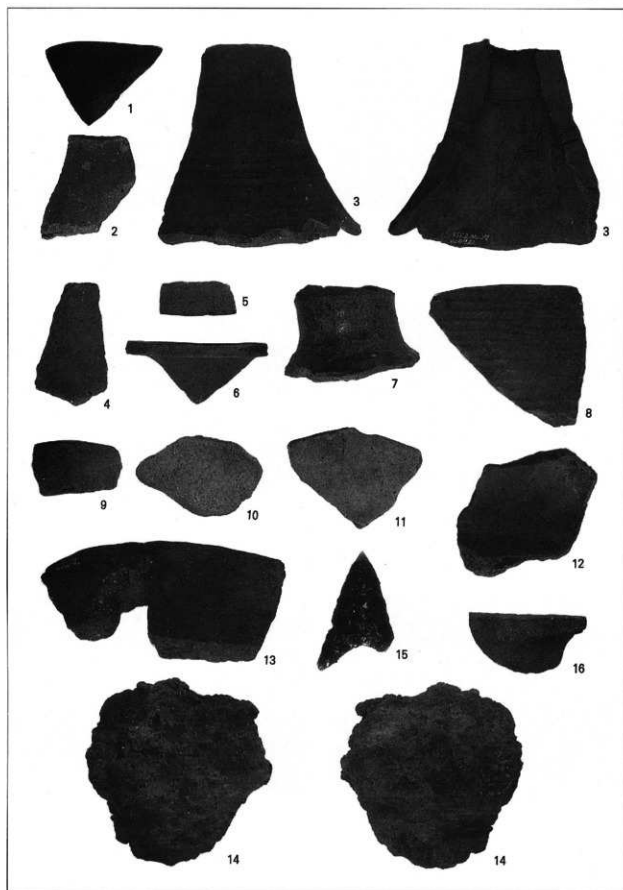
調査地(南部分)



作業状況

210.2
Yon
(22)

國書館
[圖版2]



出土遺物

財 米子市教育文化事業団文化財発掘調査報告書22

石州府第2遺跡 II

1997年 3月

編集・発行 財団法人 米子市教育文化事業団
〒683 鳥取県米子市中町20

印刷 (有)みどり印刷
